

総領事からの活動報告(3月上旬)

平成 24 年 3 月 11 日
マイアミ日本総領事
川原英一

◆東日本大震災から 1 年

東日本大震災から 1 年が経とうとする 3 月 8 日午後、フロリダ各地で日本支援のための活動をなさって下さった多くの方々をお招きして、式典を公邸で行いました。冒頭、大震災の犠牲となられた方々に黙祷を捧げた後、日本への支援と連帯活動をして頂いた多くの方々に対して、深く感謝の気持ちを申し上げました。その上で、震災復興に向けて、日本のビジネス、観



光が世界に開かれたものとなっていること、さらに、震災からの復興が世界のモデルともなることを目指しますとのメッセージを当方から御出席の皆様にお伝えしました(当方発言は当館 HP 英語版で掲載しております)。

その後、バイオリニスト大津純子様による東日本大震災犠牲者の追悼のため「南部牛追い唄」の独奏がありました(左写真)。ま

た、鹿児島市との姉妹都市交流が活発なことから当地での日本支援活動に自らが参加されたマイアミ市レガラード市長さん(右写真、右端がレガラード市長)、眼科診療車を日本へ派遣したマイアミ大学バスコン・パルマー眼科研究所事務局代表者による御挨拶も頂きました。



公邸内では、東北地方の震災直後・その後の復旧・復興状況や東北観光地の写真パネルの展示も行い、海外からの日本支援に感謝するビデオの放映も併せて行いました。また、日本から取り寄せた宮城産の日本酒の試飲をお勧めしたところ、参加者に好評でした。今回の式典



に参加下さった方は、フロリダ州北部にある州都タラハシ、州北部の主要産業都市であるジャクソンビル、州中部地域のオーランドや日本語学科を有するフロリダ大学があるゲインズビル市、州西部地域のセント・ピーターズバーグ市、サラトサ市などから 132 名の方の参加を頂きました。

なお、当日、公邸入口前に、マイアミ大学バスコン・パルマー眼科研究所から仙台に送られて、仙台を中心に被災地域での眼科診療に活用された大型眼科診療バス（Vision Van:右側写真）が式典に合わせて展示されて、参加者から驚きの声が上がっておりました。（左側写真:右がコーラル・ゲープルズ市のジム・ケーソン市長）



また、州都タラハシでの日本支援の基金活動の中心となった日本人会から、日本赤十字社宛ての義援金もお預かりしました（右写真:タラハシに御在住の田中源蔵様より、義援金の小切手をお預かり致しました）。



今回式典に御参加頂いた方より、東北民謡をテーマにしたバイオリン演奏が心に響き渡り、とても素晴らしい、日本の震災からの復興が徐々に進みつつあることがわかり、ほっとした、さらなる復興が進むことを心よりお祈りしているとの趣旨の言葉が多く聞かれました。

◆マイアミ・ヘラルド紙国際エディターとの懇談、大震災特集記事の掲載

3月1日、当地の主要紙「マイアミ・ヘラルド」のイヤーウッド国際エディターを招いて、1月末、公益財団法人フォーリン・プレスセンター（FPC）の先進国記者招聘で訪日した取材結果をお聞きしました。仙台市や石巻市といった東日本大震災の被災者から直接に取材を行う機会があり、被災者の皆さんが、米軍による「トモダチ」作戦による支援活動やバイデン副大統領の被災地訪問に対する感謝の気持ちがとても強く伝わってきた、と語っていました。また、大震災直後、被災者達が助け合い、協力しながら、忍耐強く、規律ある対応をしていたことについて、このようなことは、世界でも例のない大変に



立派な行動であり、大いに感動した旨同エディターの発言がありました。さらには、3.11から2年後の来年に、もう一度東北を是非訪問して、大震災からさらなる復興の進展の様子を取材したい、と熱く語ってくれました。また、FPC 記者招聘プログラムの内容が大変に充実していたと関係者への御礼の言葉もありました。

3月7日、マイアミ・ヘラルド紙ウェブサイト上には、ワールド・デスク「日本の復興努力」というタイトルで、6分40秒のビデオが放映され始めました。同ビデオでは、東北地方の被災地の映像や加藤外務政務官とのインタビューなどがあり、インタビューに応じて、自動車に必要な半導体部品工場が大震災で壊滅的被害を受けたものの、メーカーの復旧支援等があり、早期の工場再開ができたとの

同政務官御発言などが紹介されています。さらに、同紙経済記者と国際エディターとの貿易関係に関する対談があり、フロリダ州北部地域の最大貿易相手国が日本であり、特に自動車輸入が盛んなことを紹介した上、当地マイアミでも、東日本大震災 1 年後の式典が、総領事公邸で行われ、犠牲者追悼及び日本支援への感謝などが行われるとの当館プレスリリースに基づく紹介もありました。（*マイアミ・ヘラルド紙ビデオサイト：<http://www.miamiherald.com/#navlink=navbar>）

3月10日(土)付マイアミ・ヘラルド紙では、FPC 先進国記者招聘で今年1月末訪日した同紙国際エディター(イヤーウッド)自らが、仙台市・石巻市での直接取材をもとにした日本特集「津波から1年、被災地の町をどのように再建するのか・・・」との見出しの長文記事を掲載しています。被災地の町再建に関する自治体・被災者関係者の声や、野田総理の被災者の声に配慮した町の再建をめざすべしとの御発言、さらには、米国が3.11後、被災者支援のため「トモダチ」作戦という大規模な活動を実施したことなど、詳細に報じています。

(* 同記事サイト：<http://www.miamiherald.com/2012/03/10/2685252/reconstruction-plans-stir-debate.html>)

◆中米カリブ大使館領事担当官会議の開催

3月5日、当マイアミ総領事館において、中米・カリブ地域の領事担当官会議を開催しました。



外務本省領事局からの出張者、当館の広域領事担当、中米・カリブ地域の10か国日本大使館の領事担当者等が参加をして、日頃の領事窓口現場での対応上の疑問点、領事サービスの質の向上、本省からの領事サポート体制などについて、本省領事局ベテラン職員との間で意見交換を行いました。活発な意見交換があり、これを契機に、参加した近

隣公館領事担当者同士のネットワークが形成され、又、大変に有益かつ充実した討議が行われました。会議参加者より、今後も、このような会議を定期的で開催して頂きたいとの要望の声もありました。(了)